

令和4年度 第10回浦川原区地域協議会 次第

と き 令和5年1月27日(金) 18時30分から

ところ 浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

1 開 会 (:)

- 会議の成立確認(成立出席委員数6人) 出席委員数__人 欠席委員数__人
- 会議録の内容確認者の指名 確認委員の氏名 赤川義男 委員

2 報 告

(1) 会長報告

(2) 委員報告

(3) 市からの報告

- ・3区中学校統合の進捗状況について

3 協 議

- (1) 「浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみの廃止について」の諮問に対する答申について
- (2) 令和4年度地域活動支援事業成果報告会について(資料1)
- (3) 自主的審議事項の検討について

4 自主的審議事項

- ・ほくほく線の利用促進及び利便性向上について(資料2)

5 その他

- ・令和4年度「大・浦・安」地域協議会委員研修会について

6 次回の会議日程

- ・令和4年度第11回地域協議会

日時：令和5年 月 日 () 時 分から

会場：_____

7 閉 会 (:)

(案)

令和 4 年度地域活動支援事業成果報告会 開催要項

1 目 的

令和 4 年度に地域活動支援事業を活用して事業を実施した団体が活動内容を広く市民に報告するとともに、浦川原区地域協議会が団体の活動内容や今後の事業の見通しなどを確認し、地域活力の向上や地域課題を探る一助とするため成果報告会を開催する。

2 開催日時

令和 5 年 3 月 25 日（土） 午後 1 時 30 分から 3 時 10 分まで

※報告会終了後、令和 6 年度の「(仮称) 地域独自の予算」の提案に向けて、制度の概要やスケジュールについて説明します。

3 会 場

浦川原コミュニティプラザ 4 階 市民活動室 4・5

4 令和 4 年度地域活動支援事業成果報告会について

(1) 内容

- ・補助を受けた団体は、市に提出済み（または提出予定）の「補助事業実績報告書」に基づき、①事業の収支、②実施事業の内容、③事業評価（効果・成果、評価の根拠）、④今後の活動の見通しについて発表することを必須とする。
- ・事業実施中の場合は、報告会開催時点での取組内容を発表する。

(2) 時間

発表時間は、質疑の時間を含めて 1 事業当たり 10 分とする。（全 6 事業）

(3) 発表順

事業提案順により行う。

(4) その他

新型コロナウイルス感染防止対策のため、団体の出席者は 1 人（5 団体）とする。

（裏面へつづく）

(案)

令和4年度地域活動支援事業成果報告会 次第

日 時：令和5年3月25日(土) 13:30～15:10

会 場：浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

進行：_____

(1) 開会 (13:30)

挨拶：浦川原区地域協議会 藤田会長

(2) 令和4年度地域活動支援事業成果報告 (13:40)

発表順 (資料No.)	発表時間	事業名 【団体名】
1	13:40～13:50	第13回浦川原和太鼓祭 【特定非営利活動法人保倉川太鼓】
2	13:55～14:05	虫川の観光資源を活用した観光PR事業 【大字虫川自治会】
3	14:10～14:20	うらがわら雪あかりフェスタ 【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】
4	14:25～14:35	広報紙「夢だより」周知推進事業 【特定非営利活動法人 夢あふれるまち浦川原】
5	14:35～14:45	「和山・観音堂」トレッキングコース整備促進事業 【特定非営利活動法人 夢あふれるまち浦川原】
6	14:50～15:00	宿泊体験交流施設月影の郷イベント事業 【月影の郷運営委員会】

(3) 閉会 (15:10)

挨拶：浦川原区地域協議会 _____ 副会長

令和 5 年 月 日

上越市長 中川 幹太 様

浦川原区地域協議会

会長 藤田 宏裕

ほくほく線の利用促進及び利便性向上について（意見書）

上越市地域自治区の設置に関する条例第 7 条第 1 項の規定に基づき、ほくほく線の利用促進及び利便性向上について自主的に審議した結果、下記のとおり意見がまとまりましたので提出いたします。

記

浦川原区地域協議会では、多くの諸課題について自主的審議の検討を進めており、その重点課題の一つに北越急行(株)（ほくほく線）の利用促進があります。

東頸城地区の先人の約 100 年かけた願いが実現し、1997（平成 9）年に「ほくほく線」が開業しました。これまで、親しみ・愛着をもって利用してきた鉄路も、開業から 25 年が経過しています。

中でも、2015（平成 27）年 3 月の北陸新幹線開業まで越後湯沢・金沢間で運行された特急「はくたか」は、走行スピード・収益とも在来線で日本一（首都圏を除く）となり、今でも誇りに思っています。

しかしながら、北陸新幹線の開業とともに利用者が減少し、開業当時の熱意を知らない人が増えた現在、冷静に考えて、マイレールとして地域で支えていくことが大変重要となってきました。

浦川原区地域協議会では、ほくほく線の利用促進や利便性向上、地域の活性化に向けて、自主的に審議してきました。この審議内容に加え、浦川原中学校の生徒さんを行っている意見交換会での意見も取り入れ、以下の取組としてまとめましたので、沿線市町の中核であり、北越急行(株)の大株主である上越市の大きいなる支援を期待いたします。

(案)

- 令和 6 年春の敦賀延伸を見据え、北陸新幹線の停車駅である上越妙高駅へのほくほく線の乗り入れを復活するとともに、本数を多くすること。

直江津駅での乗り換えを少なくすることにより、関西方面への移動の利便性向上を図る。なお、直江津駅で乗り換える場合は、高齢者・障がい者等に配慮し、同一ホームでの乗り換えとすること。

- JR 黒井駅にほくほく線列車の停車本数を多くすること。

直江津地区工場群の通勤者（交代勤務者も含む）に「ほくほく線」の利用促進を図る（パーク&ライドによる SDGs の実現）。

- 当地域の農産物生産者や民間事業者が北越急行(株)のネットショップ網を活用して地域の特産品等を販売し、利益の一部を北越急行(株)に還元するとともに地域の活性化につなげる。

- 北越急行(株)が製造する新車両には、必ず車内トイレを設置すること。

- 虫川大杉駅・うらがわら駅両駅舎を活用し、地域の方々が企画・運営するイベントにより駅舎周辺の活性化と「ほくほく線」の利用促進を図るために必要な支援をすること。

例えば、駅舎前広場でのマルシェ（地元生産者やキッチンカーの出店）や駅舎でのカフェ（茶屋）などのイベントを地域運営で開催するための協力。